



RIST開発事業部 山岸耕二郎氏作「華垣」(F60)
平成16年6月、水戸市芸術祭美術展(日本画)特賞(水戸市長賞)受賞

編集後記

友人から「弥太郎山へ紅葉狩りに行こうか」との誘いを受けた。一昔前なら、取り敢えず、「是非一緒させてほしい」と二つ返事で受けて、本屋へ行って、「中高年の山歩き」、「栃木の百名山ガイド」などを求めて、下調べを楽しむところ。最近では、まずインターネットで返事を出し、「弥太郎山」でWEB検索を試みる。yahooで98件、googleで41,800件と膨大な数の検索結果が得られる。「中高年 山歩き」の検索でもしかり、どう絞り込んで欲しい情報を得るかが問題となる。

本誌の読者も、こんな具合で、ITの恩恵を受けており、世に云う「デジタルデバイド(情報格差)」の尺度からすると、中流以上に位置しているものと想像する。総務省は、このデジタルデバイドによる社会不平

等の是正をひとつの目標に、2001年(e-Japan)、2004年(u-Japan:ユビキタスジャパン)に重点政策を発表して、ユビキタスネットワーク(いつでも、どこでも、誰でも、何でもつながるネットワークの意味)利用環境を形成するICT(IT:インフォメーションテクノロジーに対して、インフォメーション&コミュニケーションテクノロジー)の普及を目指している。デジタル家電の普及は、目覚しく、生活の奥深くICT化は浸透しつつあり頼もしい限りである。それにしても、先日、自動車の音が聞こえない場所を選んで里山歩きをしていたら、突然、「モシ、モーシ、お疲れさまでーす・・・」と携帯電話での話し声が響いた。これもユビキタスか?複雑な心境になった。(藤崎、小沼)